

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(幡羅中学校)

## 平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
幡羅中	同等	上回った	下回った
埼玉県	70.0	52.0	49.0
全国	69.0	51.4	49.3

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	幡羅中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.4	92.2	91.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	89.1	80.6	79.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.9	91.7	92.2
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	7.5	7.9	9.4
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	64.4	60.3	58.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	89.0	78.4	74.7
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	89.6	83.3	79.2
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	81.1	74.1	69.5
教科への関心	国語の勉強は好きだ	60.9	61.2	61.9
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	94.8	90.6	89.7
	算数の勉強は好きだ	69.5	56.8	58.1
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	86.8	74.8	76.5
	理科の勉強は好きだ	81.0	64.8	66.4
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	78.2	62.5	61.5
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	96.0	51.1	50.9
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	67.2	37.2	37.2
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	41.9	14.9	17.8
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	24.2	12.7	15.0
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	12.6	7.1	6.3
その他	自分には、よいところがあると思う	86.8	81.2	78.5
	将来の夢や目標をもっている	86.8	68.9	67.3
	人の役に立つ人間になりたいと思う	98.3	95.0	95.0
	今住んでいる地域の行事に参加している	75.6	64.2	66.9

## 【質問紙分析】

- ・ ICT を活用した授業実践の割合が、全国・県と比べて高いのは、本校の学校研究課題「ICT を活用した、効果的な学習支援や指導法の工夫」に全教職員で取り組んでいるからだと考えられる。
- ・ 「新聞を読んでいる（週に1回程度以上）」の割合が、全国・県と比べて低いのは、読書の習慣が身につけていないことが原因だと考えられる。そのため、朝読書の実施や学校図書館を効果的に活用することが必要である。

## 全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

### 【国語】

- 「話すこと・聞くこと」では、会話内の質問の意図を適切に捉えることができた。
- 「読むこと」では、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができた。
- 「言語についての知識」では、漢字の読みや語句の意味を適切に捉えることができた。
- 話し合いの話題や意図は捉えられるが、自分の考えをまとめることが課題。
- 「書くこと」では、推敲したり、語句の使い方、段落相互の関係に注意して、わかりやすい文章にしたりすることが課題。
- 敬語を適切に使い分けて、心情が相手に効果的に伝わるような文章を書くことが課題。

### 【数学】

- 基本的な知識・技能の活用で取り組めるような単純な問題の正答率が高く、基礎基本の定着がみられる。
- 自分の考えを表現する問題に積極的に取り組める生徒が多く、正答率も高い。表現力の高さがみられる。
- 図形の合同証明の流れを理解し、文脈から適切な式を数学的に考え、立式することが難しかった。文脈の理解や条件の入れ替えに対する理解が不足している。
- 関数の情報を、数学的な視点で解釈し、数学的な表現で表すことに苦手意識がみられた。

### 【理科】

- 4（1）出題の趣旨は「節足動物の外部形態の考察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる。」であるが、1年生の動物の分類の授業内で分類条件を整理する、条件をもとに動物を分類する活動を取り入れている結果だと考えられる。
- 7（1）出題の趣旨は「液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。」であるが、授業内で身の回りの状態変化を取り入れている結果だと考えられる。
- 5（1）出題の趣旨は「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」であるが、重力や重力につり合う力の説明はできていたものの、力を矢印で表すことができていないと考えられる。
- 2（3）出題の趣旨は「飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、他面的・総合的に検討して改善できるかどうかをみる。」であるが、推論した考察の妥当性について判断することができていないと考えられる。

【国語】

- ・書くことの苦手さを解消するために、題材ごとの自己評価を文章で書くことや、自分の考えを書くことを意図的に活動に取り入れる。
- ・敬語を使つての会話や文章を書く活動を通して、伝えたい内容を適切な敬語で表現できるようにしていく。
- ・eライブラリを活用して個別学習に取り組むことで、学習したことの復習や定着に生かしていく。

【数学】

- ・いくつかの条件を、その違いから比較・検討し、答えを導く活動を授業やテストに取り入れていく。文脈の中から必要な数学的な情報を理解できるように、アンダーラインを引きながら、問題を読み深める活動等も取り入れていく。
- ・数学的な思考を深める際に、考えたことを数学的な表現を用いて、表す活動を積極的に取り入れていく。式や図、表、グラフ、論理的な説明文等、様々な表現方法に慣れさせる活動を取り入れる。

【理科】

- ・力の説明をすることができていたので、その力を図示して説明する（作用点がどこになるか）についての学習を取り入れていく。
- ・他者と考察について妥当性があるか検討する機会を設ける必要がある。  
また、雲のでき方（露点など）について複数の実験を数日間かけて行うことによって、雲のできやすい条件やできにくい条件などが整理できるような活動を取り入れる。

【その他】

- ・各学年で家庭学習の目標ページを設定し、ICT機器を活用して個別学習に取り組ませる。（eライブラリの活用）
- ・教科を越えてお互いの授業を見合ったり、良い取り組みは共有したり、先生方の授業力向上に努める。